

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

(羽曳野市立埴生南小学校)

【調査の目的】

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査の対象学年】 小学6年生

【調査の内容】

①教科に関する調査（国語、算数）

出題範囲は、調査する学年の全学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ①身に着けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ① 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

【調査実施日】 令和6年4月18日（木）

【調査結果】

※今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

『国語』

成果	成果がみられた問題 ☆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で書く問題 ②三イ【問題】上級生が遠くからボールをなげる。＜短答式＞ 正答率 本校 82.3% 大阪府 76.1% 全国 75.0%
	☆資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかを見る問題 ①二（2）【問題】オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する。＜選択式＞ 正答率 本校 54.4% 大阪府 50.1% 全国 52.9% ⇒大問は、違う学校の児童二人がオンラインで交流した時の会話が吹き出しの形で並んでいる。この小問題は、その会話の仕方によどのような工夫があるのか適切なものを選ぶもので、工夫自体も、日常の中の会話なので考えやすかった。
	☆日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに気づくことができるかどうかをみる問題 ③四【問題】「原さんの読書の記録」の空欄に入る内容として適切なものを選択する＜選択式＞ 正答率 本校 74.7% 大阪府 72.6% 全国 74.6%

課題	課題がみられた問題
	☆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で書く問題 ②三ア【問題】きょうぎの作戦を考えたりします。<短答式> 正答率 本校 27.8% 大阪府 41.4% 全国 43.3%
	☆情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題 ②二【問題】【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、「高山さんの取材メモ」を基にして書く。<記述式> 正答率 本校 74.7% 大阪府 85.5% 全国 86.9%
	分析 マインドマップを見て、情報と情報がどのような関係で広がっているのかを理解することが難しかったようである。単なる知識を問うのではなく、関係性は何かなど情報を自分で整理して答えないといけないところに課題がみられました。
	☆文中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる問題 ③一【問題】物語の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する<選択式> 正答率 本校 53.2% 大阪府 61.9% 全国 62.3%
☆話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる問題 ①二(1)【問題】オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する 正答率 本校 65.8% 大阪府 74.0% 全国 75.9%	
分析 学習指導要領の中の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の問題に本校としての課題が大きいということがわかりました。	

『算数』

成果	成果がみられた問題
	☆数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる問題 ①(2)「はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ。」<選択式> 正答率 本校 89.9% 大阪府 88.1% 全国 88.5%
※無解答率については、今回、全16問中12問が全国平均、大阪府平均よりも下回った。何かを解答しようという児童の前向きな姿勢が表れていると考えられます。	
課題	課題がみられた問題
	☆問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる問題 問題①(1) 問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ<選択式> 正答率 本校 43.0% 大阪府 61.1% 全国 62.1%
	☆速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問題 問題④(2) 「3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く。」<短答式> 正答率 本校 55.7% 大阪府 70.5% 全国 70.0%
	☆速さの意味について理解しているかどうかをみる問題 問題④(4) 家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く<短答式> 正答率 本校 41.8% 大阪府 53.0% 全国 54.1%
分析 全16問中、1問は全国平均、大阪府平均よりも上回ったものの、15問は各平均を下回りました。特に、学習指導要領の領域でみると、「変化と関係」で正答率が低かったといえます。例えば“速さ”の学習では、まず速さを出した上で、距離に変化があった場合、どれだけの時間がかかるかを求める問題に課題がみられました。	

『課題克服のために』

調査結果の分析を進める中で、本校の子どもたちには「習得した知識・集めた情報を使って、自分の考えを表現する学びが必要であること。」「根拠を明らかにしながら、自分の意見を発表する・文章を書くという経験がまだまだ足りていないこと。」「記述式に慣れること。」などが課題として浮かび上がり、全教科で子どもが主体的に取り組む問題解決型学習を進めていくことの必要性を感じています。

無解答率が低かったことについては、前向きに評価する必要があると考えます。今後も、諦めず問題（学習課題）に向き合う姿勢を育てていきたいと思えます。

課題が大きいとみられる「算数」では、問題を解く際に、単純に公式に当てはめて立式をしようとするのではなく、絵や図なども用いながら、変化している内容がイメージしやすいアプローチが必要であると考えています。また、問題場面をイメージしながら、線分図に表し、立式につなげる習慣を身に付けさせたいと考えています。

本校では、各教科で「言語能力の育成」の観点から、「情報を読み取り、そこから考えた自分の考えをわかりやすく伝えるように書く力」の育成に努めてまいります。

令和5年度と令和6年度に、本校では『子どもが主体的に取り組む授業をめざして～自分の思いを豊かに表現できる子の育成～』をテーマに校内研究・授業研究を進めております。学校全体で子どもたちに『つきたい力』として、①必要な情報を効果的に集める力 ②集めた情報を活用して課題を解決しようとする力 ③集めた情報を整理し、わかりやすく伝える力 を掲げ、授業改善の取り組みを進めております。また、「Xチャート」「Yチャート」などの思考ツールを活用したデータを分類・整理する方法を身に付け、集めた情報を「情報カード」にまとめ、「情報を読み取り、自分の考えをわかりやすく伝えられるように書く力をつける」ことに繋げたいと考えています。

併せて、一斉学習、個別学習、協業学習それぞれの学習場面に合わせて、ICT機器（タブレット端末等）や導入アプリ等を効果的に活用できる力の育成に努めてまいります。

『児童質問紙より』・・・アンケートから見える埴生南小学校の児童たち（6年生）の様子

【学校生活について】

○設問13「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」
⇒ほぼ全員に近い児童がいじめ撲滅に向けた強い意志を持ってくれています。平素からの仲間づくり・集団づくりの取り組みの成果が伺えます。

○設問10「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」
⇒肯定的回答が89.8%と高い水準を保っています。「集団づくりウィーク」などの取り組み等、子どもたちをつなげる・つながるための取り組みが実っていると思われます。

【自身について】

○設問9「自分には、よいところがあると思いますか」

【肯定的回答】本校 84.8% 大阪府 84.0% 全国 84.1%

<本校の推移 R3 63.8% ⇒R4 73.7% ⇒R5 76.1%>

○設問12「人が困っているときは、進んで助けていますか」

【肯定的回答】本校 92.4% 大阪府 91.5% 全国 92.7%

⇒上記2つの質問は、年々肯定的回答をする児童が増えています。日頃の本校での人権教育等の取り組みが子どもたちに浸透していると思われます。

【ICT機器の活用について】

○設問4「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）」

成果

<p>成果</p>	<p>⇒全く使わないと回答した割合 本校 13.9% 大阪府 30.5% 全国25.9% とタブレットを活用した宿題等の取り組みによってタブレット活用の定着が進んでいる様子が伺えます。今後も学習支援ツールとして有効活用してまいります。</p> <p>○設問 28 「5年生までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。」 (6)友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる 【肯定的回答】89.9% (7)友達と協力しながら学習を進めることができる 【肯定的回答】91.1% ⇒これらの設問で肯定的に回答した児童の割合が大阪府や全国と比べて高く、タブレットが発表する時や、友だちと学習内容を共有するためのツールとして定着している様子が伺えます。</p> <p>○設問 31 「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」 【肯定的回答】 本校 82.3% 大阪府 78.4% 全国 79.6%</p>
<p>課題</p>	<p>【生活面について】</p> <p>■設問1「朝食を毎日食べていますか」 【「あまりしていない」「全くしていない」と回答】 本校13.9% 大阪府 7.7% 全国6.3%</p> <p>■設問2「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」 【肯定的回答】 本校62.0% 大阪府83.4% 全国82.9%</p> <p>■設問3「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」 【肯定的回答】 本校82.3% 大阪府90.8% 全国91.6%</p> <p>■設問5「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」 【3時間以上と回答】 本校51.9% 大阪府35.3% 全国30.3%</p> <p>■設問6「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)」 【3時間以上と回答】 本校39.4% 大阪府26.1% 全国20.7%</p> <p>■設問7「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」 【肯定的回答】 本校82.3% 大阪府90.8% 全国91.6%</p> <p>⇒電子機器の使用が3時間以上と答えた児童が大阪府や全国と比較して顕著に大きく上回っています。家庭でのスマートフォンホなどの取り扱いが乱れている可能性があります。</p> <p>【学習活動について】</p> <p>■設問21「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」 【30分より少ない(「全くしない」を含む)と回答した割合】 本校29.1% 大阪府17.1% 全国15.1% ⇒設問に対して、「全くしない」を含め「30分より少ない」と回答した児童が約3割を占め、全国や大阪府に比べ顕著に多くなっています。</p>

■設問22「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」

【全くしないと回答した割合】 **本校31.6%** **大阪府 25.0%** **全国 15.1%**

⇒調査結果からは、家庭学習の時間が平均すると、とても少ないと思われます。学習する時間の継続性(毎日の学習習慣)が大切であることが伺えます。

【考察】

課題

これらのアンケート調査から、子どもたちの基本的な生活習慣の確立と食育の観点からの規則正しい食生活の確立がまずはベースにあるのではないかと考えます。

また、今回の調査で、本校児童について携帯電話やゲーム機依存の高さが懸念されます。これらの電子機器の使用時間の多さが家庭学習の時間確保にも影響が出ていることが伺えます。

学校と家庭が連携して、適度な使用にとどめる家庭内でのルールづくりやセルフコントロールする力(自制心)を育む教育(取り組み)の必要を感じています。ご家庭でのご協力をお願いいたします。